

「多治見市合流式下水道改善計画」(案)についての意見と対応方針及び計画への反映

＜アドバイザー会議H17.1～2月、意見公募期間H17.1.15～2.15＞

意見提出者	いただいた意見の要旨	市としての対応方針	本計画への反映
アドバイザー会議委員 及び意見公募	笠原川右岸ポンプ場調整池の活用について 現在建設中の笠原川右岸ポンプ場調整池を、合流式下水道の改善に活用できないか。	笠原川右岸ポンプ場調整池は、浸水対策用の施設と考えており、ポンプ場の能力を超える雨が降った場合に水を貯留するものであるが、ポンプ場の能力を超えない程度の雨のときには調整池を合流改善目的の滞水池として活用することは可能と考えられるため、実際の運用方法、維持管理上のことも含めて、今後検討する。	今後の検討課題として記載
	未処理下水の放流水質について 未処理下水の水質は現状でも水濁法の排水基準をクリアしており法的に問題はないのでは。降雨時の土岐川の水量を考えるとかなりの希釈が期待できると考えられるが、水質への影響についてどのように検討しているのか。	合流式からの現状の未処理放流水質は、現行の法制度においては許容される範囲内であるが、合流改善に対する全国的な施策目標として、合流式下水道からの放流負荷量を分流式並みにすることが掲げられているため、本市としても、何らかの対策を講ずる必要があると考えている。	当初案のとおり
	県立病院駐車場の利用について 土岐川北岸の貯留施設として県立病院の駐車場を利用したらどうか。 また、単に貯水するだけでなく微生物処理をすれば、最終処理水の負荷が少なくなるのでは。	合流改善の貯留施設は、希釈された合流下水が雨天時のみ貯留されるため、土岐川北側については、処理効率、維持管理上の観点から、そこで貯留・処理するより処理場に送水してまとめて処理した方が経済的で妥当と考えている。	当初案のとおり

アドバイザー会議委員	分流化について 合流式を分流式にする(分流化)方法とはとれないのか。	分流化については、相当な事業費が必要なことや個人宅地内の排水管を污水用と雨水用とに分けるための工事を個人負担にて行うことが必要であり、分流化を10年以内に実施することは難しいと考えている。	今後の検討課題として記載
	整備方針について 合流改善対策は、10年以内に実行しなければならないのか。	「10年以内に分流式並みの放流負荷量を達成」という国の方針に沿って進めたいと考えている。	当初案のとおり
	貯留施設について 新設する貯留施設は、愛岐道路の地下を利用するなど用地コストがかからないようにすべき。小学校のグラウンド利用は工事实施の際問題が多いのではないか。	貯留施設については、道路の地下などを念頭に設置場所を検討し、合流改善の目標を達成できる施設で、現状の技術で建設・運転管理が可能なもの検討したいと考えている。	計画の中で道路の地下を想定した貯留管と記載。
	スクリーンによる放流負荷量の削減効果について 雨水吐室にスクリーンを設置することによって、どれくらい汚濁負荷量の削減ができるのか。	スクリーン設置により、きょう雑物とそこから由来するBOD(きょう雑物自身やきょう雑物に付着した有機物等)を除去できるため、放流水をきれいにする効果は当然あるが、きょう雑物の削減効果をBOD負荷量という水質指標として把握することが困難であるため、スクリーン設置による汚濁負荷量の削減効果を数値目標として示すことができない。	スクリーン設置によるきょう雑物除去量を、池田下水処理場におけるきょう雑物の除去量の実績から推計し、参考値として記載。
	表現方法について 放流負荷量、未処理放流回数の表現について一般の方にもわかりやすい表現とすべき。	説明方法を工夫し、わかりやすいものとする。	計画の中で表現方法を修正

意見公募	汚濁負荷量の削減目標について 市全域や土岐川流域全体での汚濁負荷量の削減を考えることが第一で、その中で合流式下水道から発生する汚濁負荷量の削減を総合的な視点で説明すべきではないか。	土岐川(庄内川)流域において、合流式下水道を採用している市町村は名古屋市を除けば本市のみ(県内でも本市のみ)であり、合流式区域の規模も比較的小さく、そこから発生する汚濁負荷量も全体からみればわずかな比率であるが、少しでも放流負荷量を減らすことが合流式下水道をもつ市としての努めであると考えている。	本計画の範囲を超えた視点からの意見であり、計画に反映することは困難。
	発生源対策について 下水道処理施設における汚濁負荷低減よりも、エネルギー消費等からの二酸化炭素排出、メタン発生といった発生源対策をした方が効果的なのでは。	排出負荷削減の一環として、下水道における汚濁負荷削減もやっていかなければならないと考えている。 ご意見のあった二酸化炭素等の排出負荷削減についても、たとえば工事实施にあたって排出ガス対策型の建設機械を使用したり、処理場等に省エネ型の設備を導入するなど、下水道事業の中で対応可能なものについては、実施に努めているので、ご理解願いたい。	本計画の範囲を超えた視点からの意見であり、計画に反映することは困難
	水路網の再生について 将来的には雨水と汚水を分離(分流化)することが必要と思われるが、その際に雨水についてはオープン水路として水路網の再生を提案したい。これにより夏場の気温緩和に効果があるのではないか。	ご提案については、将来的に分流化を進める場合には、気温緩和といった環境の側面だけでなく、維持管理面、治水の面等から、多角的に検討し、参考とさせていただきたい。	本計画の範囲を超えた視点からの意見であり、計画に反映することは困難